

**集落営農組合の法人化を進め  
農地中間管理機構を活用して農地を集積**

**平成28年8月5日**

**横手市二ツ橋地区**

**農事組合法人二ツ橋 理事 丹 健一**

# 地区の概要

◆ 地区内面積	104.8ha
内集積面積	66.8ha
中間管理事業活用	50.7ha (48.4%)

- ◆ 平鹿平野のほぼ中心、横手市の南部に位置する平坦地。横手市管内でも有数の米の良質多収地帯であり、水稲、そば、のほか食用菊等の栽培が盛んな地域。

ほ場は平成19年に50a、1haの大区画整理をしたが、約7割が30a区画となっている。

# 農地中間管理事業導入の経緯

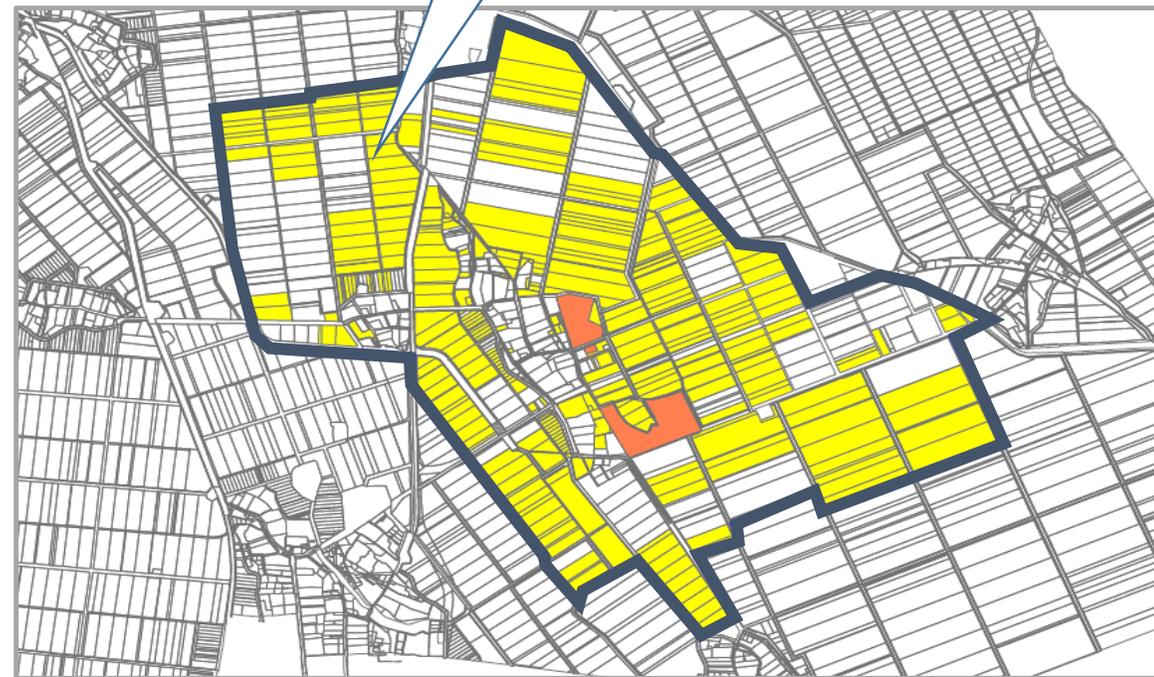
- ◆ 昭和63年 ミニライスセンター建設
- ◆ 平成18年3月 「ニツ橋営農組合」を設立し機械共同に取組
- ◆ 平成19年 担い手基盤整備で農地の3割を大区画化
- ◆ 平成24年10月 横手市十文字地域の「人・農地プラン」決定
- ◆ 平成26年8月～ 法人設立に向け 集落の農家との話し合い
- ◆ 平成26年9月 農事組合法人「ニツ橋」を設立  
農家戸数 28戸 面積 82.4ha

## 取組が進んだ理由

- ◆ 基盤整備事業で大区画化されたが、農家の高齢化と農業機械の老朽化による農作業委託が増加しつつあったことから、地域農業の将来に関するアンケートの実施や、農地・水・環境保全活動等の話し合いを通じ、営農組合から法人設立の気運が高まった。
- ◆ 地域農業を担う中心となる営農組合を発展させた法人設立をめざす中、出し手農家が抱える農地の管理等の不安に対して、説明会や勉強会等により丁寧に説明し、不安解消に努めた。

# 農地中間管理事業導入のメリット・効果

- ◆ 公的機関である中間管理機構が農地の中間受け皿であることから、出し手農家が安心して農地を貸し付けることが出来た。
- ◆ 地域集積協力金の使途は地域の合意に基づき、農事組合法人「ニツ橋」の田植機やコンバイン等の農業機械整備資金として活用することにより、法人の安定経営に繋がった。
- ◆ 出し手農家に**経営転換協力金**および**耕作者集積協力金**が交付されて事業参加の効果が認められた。



黄色の箇所が  
法人に集積

## 取り組みを進める中での課題

○ 地域では、ミニライスセンター活用での自己完結型の小規模農家が多いことから、

- ① これまで手をかけて作り続けてきた農地を手放すことへの不安
- ② 農地を貸付けするとしても、誰が、どのように農地を管理してくれるか不安（農道・水路の管理、畦畔の草刈り、等）
- ③ 農業法人という経営体の理解不足により、営農組合が法人化した後、経営が成り立つかどうか不安で信頼感が薄かった。

という課題があった。

## その対応方策 ①

- 農地の貸付けと管理について安心感を持ってもらうため、県地域振興局の担い手指導担当者を中心とし、横手市及びJA担当者の全面的なバックアップを得て、集落内の話し合いや説明会を20回以上開催し、機構の活用による農地貸借の安心感をアピール、また、借受農地の確実な保全管理の理解に努めた。

## その対応方策 ②

- 法人化、法人経営への不安については、
  - ① 農業委員、土地改良区、農地・水活動組織等の役員、営農組合役員がそれぞれの活動の中で、各組織構成農家に対し積極的に話し合い・説明をした。
  - ② 地域集積協力金を活用した農業機械導入による効率化・経営安定化を進め、将来的には後継者の育成や複合作物の導入、6次産業化への取り組み等を説明し理解を深めて不安を解消した。

## その他取り組みのポイント

- 集落内の、土地改良区・農業委員会・農地水活動組織・集落支部・営農組合等、各組織のリーダー相互間において、集落活動と農地保全管理の重要性の認識共有と、協力体制を図ることが推進のカギとなった。

### 具体的には、

- ① 日頃から各組織と情報交換しながら連携している。
- ② 各組織の総会を同日開催し、農家が参加しやすいように配慮している。
- ③ 集積地域のエリアを農地・水活動組織のエリアと同一にして集落内農家にわかりやすくし、各組織の事業に参加しやすく配慮した。

# 農地集積後の経営目標

		現況 (H27年度)	目標年度 (H30年度)
		h a	h a
経営面積	借入地	60.6	70.6
	作業受託 他	21.8	21.8
	合計	82.4	92.4
作付面積	水稻	48.0	54.0
	そば	18.3	20.3
	飼料作物 他	16.1	18.1
	合計	82.4	92.4

# 1. 転作主力作物の「そば」団地



## 2. 集落営農組織の土台となったミニライスセンター



### 3. 同一エリアで活動している「農地・水活動組織」の 景観形成花壇から見た集落全景



## 4. 地域集積協力金を活用して導入した 田植え機とコンバイン

